

第9回 イノベーション政策強化推進のための有識者会議「安全・安心」
議事要旨

1.日 時 令和2年8月28日（金）10:00～11:30

2.場 所 WEB開催／中央合同庁舎第8号館 特別大会議室

3.出席者

座長 林 春男 防災科学技術研究所理事長
角南 篤 政策研究大学院大学学長特別補佐兼客員教授
中尾 康二 情報通信研究機構サイバーセキュリティ研究所主管研究員
西山 淳一 未来工学研究所研究参与
星 周一郎 東京都立大学法学部長兼大学院法学政治学研究科長
前田 裕子 海洋研究開発機構監事
村山 裕三 同志社大学大学院ビジネス研究科教授

(政府出席者)

和泉 洋人 イノベーション推進室長（内閣総理大臣補佐官）
林 肇 内閣官房副長官補（外政担当）
別府 充彦 イノベーション推進室室長代理（内閣府審議官）
赤石 浩一 イノベーション推進室イノベーション総括官
柳 孝 イノベーション推進室次長（内閣府政策統括官（科学技術・イノベーション担当））
佐藤 文一 イノベーション推進室審議官（内閣官房内閣審議官）
千原 由幸 イノベーション推進室審議官（内閣府大臣官房審議官（科学技術・イノベーション担当））
木村 聡 イノベーション推進室審議官（内閣官房内閣審議官）
松尾 剛彦 イノベーション推進室審議官（内閣府宇宙開発戦略推進事務局長）
一見 勝之 イノベーション推進室審議官（内閣府総合海洋政策推進事務局長）

4.議 題

- (1) 安全・安心技術に関するシンクタンク機能の体制づくり検討について
- (2) 意見交換

5.議事要旨

(1) 安全・安心技術に関するシンクタンク機能の体制づくり検討について

安全・安心技術に関するシンクタンク機能の体制づくりに関する検討状況について、シンクタンク機能にどのような機能が期待されるのか、どのような要件を満たすべきか、どのような人材をどのように組織していくのかといったシンクタンク機能検討ワーキンググループ（以下、「WG」という。）での検討内容をWG主査及び事務局より報告した。有識者からのご意見を踏まえ、引き続きシンクタンク機能の組織設計について、WGにおいて検討を進める。

(2) 意見交換

有識者から、以下の通りご意見があった。

- 国益のことも考えていける組織にするためには、シンクタンク機能の中で国の安全・安心の在り方のレベル

から議論して、国とある種の基本的な合意を成立させておくことが必要。

- 組織体制を検討する中で、政府との関係が論点としてあげられているが安全・安心を実現するために必要な技術を扱う省庁とシンクタンク機能がしっかりと連携できる位置づけが必要。
- シンクタンク機能に求められる機能の一つとして挙げられている「技術シーズ情報の収集・整理」にあたっては、AI、バイオ、量子、エネルギー等の分野共通的に考えられるシーズの洗い出しの粒度と、分野に特化したシーズの洗い出しの粒度が課題である。「技術ニーズの集約・分析」にあたっても同様に、自然災害、感染症、インフラ等のニーズをどの粒度で分析するかが難しく、具体化できるかが課題。
- 体制構築のスケジュールについては、安全・安心の実現のためにスピード感を持って科学技術・イノベーションを活用することが重要であり、早く実際に稼働させるべき。
- シンクタンク機能に求められる要件として「海外シンクタンクとの連携」が必須であるが、世界情勢を鑑みれば、今こそ海外と安全・安心を実現するための科学技術に関する議論を始めるタイミングであり、準備を進めるべき。
- 人材をいかに登用し、いかに組織に参画させるかの道筋に関し、安全・安心の実現のためのシンクタンク機能であることを条件として、まず核となる人材を選ぶことから始めるべき。
- シンクタンク機能に必要な人材として、研究と産業界の知見があり、かつ双方を上手に橋渡しできるコミュニケーション能力を有する人材の参画が必要であるが、希少な人材であり、その育成も含めて課題。
- 海外シンクタンクとの連携を考える上で、必要な情報の適切な管理に加え、生み出される知財や情報の活用の観点からの戦略を立てることが重要。
- 必要な人材を確保するための仕組みとして、政府中枢直結といった社会的プレゼンスのみでなく、報酬面のインセンティブも重要。